

私国立中受験コース

個別指導会は四谷大塚提携塾です。四谷大塚のカリキュラムに従い進めます。



四谷大塚準拠コース
(通称 YT コース)

四谷大塚予習シリーズ1回分を1週間毎に進め、毎週土曜日に週例テスト受験します。受験生はレベル別のクラスに振り分けられ、その中で順位と偏差値出されます。成績優秀者は週報に掲載されます。年間何回かクラス分けの為に組み分けテストも行われ、全国のライバル達と競い合いながら学力を磨いていきます。

授業料・テスト代・教材費・維持費などの費用が含まれた割安な **YTパックコース(小4~小6)** もあります。
注> 費用には週例テストの後の反省授業も含まれます。講習費は別途となります。

YT-Pre コース

YT コースの前段階のコースです。

YT コースでは年間カリキュラムが決まっています、生徒が理解していなくても毎週新しい単元に進んでいきます。これを繰り返していると、分からない問題が積み重なり勉強に対し興味が失われてきます。YT-Pre コースでは、YT コース同様、毎週土曜日にテストを受けますが、合格点に達しない場合は、新しい単元に進まず、再度その単元を1週間学習し、再び土曜日にテストを受けていただきます。ここで不合格になれば、再度その単元を1週間学習し週末テストを受けていただきます。このように合格点を出すまで、次の単元に進みません。進みは遅いのですが確実に理解し次の単元に進みます。遅れは出ますが、春・夏・冬の講習で取り戻すことも出来ます。

授業料・テスト代・教材費・維持費などの費用が含まれた割安な **YT-Preパックコース(小4~小6)** もあります。
注> 費用には週例テストの後の反省授業も含まれます。講習費は別途となります。

都・区立中受験コース

小石川中コース

白鳳高校付属中コース

小石川中学入学者の8割以上が実は私立中学併願者です。御三家などの難関校との併願者が少なくありません。この傾向はますます増加しています。本当に合格を考えるなら私国立中受験を目指す生徒と同じように学習し偏差値60ぐらいを目指す必要があります。そういった学力を土台にし適性検査対策をやるのが合格です。従って、最初は「私国立中受験コース」で学力を付け、途中から中高一貫都立・区立中学校の各コースへ移行いたします。各中学校毎に求められている「観察力」「分析力」「表現力」・・・は異なりますので、指導方針や教材も違ってきます。
「小石川中学問題傾向」参照

中受直前コース

12月1日 ~ 入試日

小6中受験生はこのコースへ移行いたします。

12月1日より、全受験生は過去問を学習教材の中心に据えた実戦訓練に入ります。各コースで勉強を続けてきた生徒たちはこの時期から過去問を毎授業、制限時間で解いていきます。結果は記録され課題を見つけると共に、1回目よりどれほど上昇しているかを出します。当会の20数年のデータから、2度目に合格者平均を各教科で15点以上上回った生徒の90%以上は合格しています。公開模試としては「合不合判定」、「首都圏模試」も使いますが、過去問の結果が一番正確な合否予想が出来ます。家庭学習については、第1志望校合格のためには「やるべきもの」と「やる必要のないもの」を明確に区別し、絞り込んだ課題を生徒一人一人に与えます。

お断り：① 過去問の1回目の実施時期は生徒毎に替えます。② 国語に関しては本文の内容が記憶に残るため過去問は1度しか実施しません。(語句などの知識問に関してはこの限りではありません。)

小石川中学の問題傾向

H24年適性検査 III より

- [問題3] (1) 1.5Lのペットボトルの切り口は直径9.2cmで、500mLのペットボトルの切り口は直径6.5cmです。測り始めてから1時間後に、500mLのペットボトルの水の深さは、線を引いたところより3mm増えていました。(1)このとき増えた水の体積は何cm³ですか。式と答えを書きなさい。
答えは小数第3位を四捨五入して小数第2位まで求めなさい。円周率は3.14を使いなさい。
(2) なぜ2種類のペットボトルを使うのですか、考えられる理由を1つ答えなさい。
(3) (1)のときの降水量は何mmですか。式と答えを書きなさい。答えは小数第2位を四捨五入して、小数第1位まで求めなさい。

解答

- (1) $3.25 \times 3.25 \times 3.14 \times 0.3 = 9.949875$
(2) 高さを測るペットボトルは、水位の変化を見るために細くて高さが高いものがよい。しかし、そうすると口が細く雨が入りにくくなってしまうので、口の部分は広い方がよいから。
(3) $3.25 \times 3.25 \times 3.14 \times 0.3 \div (4.6 \times 4.6 \times 3.14) \times 10 = 1.49 \dots$ <答

- (2) の問題はまさに受験生の盲点についてのものである。一般的に降水量はmmで表示し、そのはかり方も雨量計の目盛りを読むだけで何らその原理を説明していないテキストがほとんど。四谷大塚のテキストを例にとると5年上「気象観測」のなかに雨量のはかり方が記載されている。しかし、雨量10ミリが何を意味し雨量計がなぜ雨を受けるロート部分と貯める貯水部分に分かれているのか？その説明はない。雨量は身近な存在だが「その意味」、「器具の構造や原理」などは学習されていないことこの問題は知っているのだ。例えば、雨量が1時間当たり15mmとは「雨がしみ込まない、流れもしない平らな地面を考え(空のプールをイメージしよう)、そこに雨が1時間降って水の深さが15mmになった。」ということだ。プールの全水量をプールの底面積(平方cm)で割ると1時間に1平方cm当たり15mmと同じく計算される。また、なぜ2重構造をしているかというと、雨を受けるロート部分は出来るだけ広い方がよいし、量を正確に計る貯水びんは出来るだけ細長い方が正確に測れるという理由からだ。1時間に貯水びんに貯まった水の体積を雨を受けるロートの面積で割れば1平方センチ当たりの雨量が計算できるわけだ。雨量計は、こういった面倒な計算をやらずに雨量ますの目盛りを読めばその数字がそのまま1平方センチ当たりの降水量を表すように目盛りを振ってあるのだ。

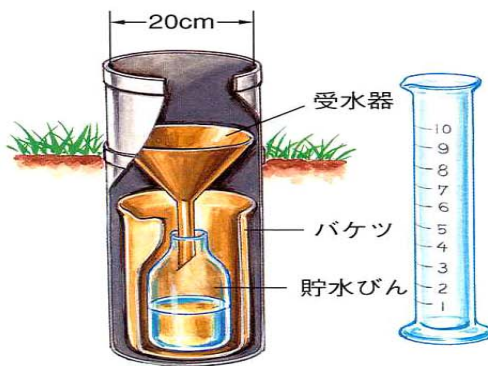
勉強方法としては、身近な理科の話題に関しては相当しっかりと原理を押さえておく必要がある。中受験用のテキストで勉強するとしても教科書で扱われている一般的なものに関しては、たとえ、テキストでは省略されていても「なぜそうなるのか」はぜひとも押さえておきたい。「ちょっとしたことにもなぜを感じる心」を持った生徒が求められているということです。

(3) 雨量のはかり方

ふった雨の量を雨量といいます。ふった雨がそのまま地面にたまっただけのものとして、その深さをミリメートル(mm)の単位で表します。

雨量計(図18)に雨を受け、雨量ます(図19)ではかります。決めた時間ごとに、貯水びんにたまった雨を雨量ますに入れて目もりを読みます。雨量ますについている目もりは、ふつうのメスシリンダーとはちがいで、貯水びんの中の水がどれくらいの雨量になるかを示すようになっています。目もり10は、雨量10mmを示しています。

雨量計がなくても、円筒形や直方体の容器のように、受け口から底までの形が同じになっているものを使い、そのままのさしなどでその深さを測ってもよいのです。



(図18) 雨量計 (図19) 雨量ます